

【関係者へのインタビュー】

県南地域の避難者支援の現状と展望

場所：福島県県南保健福祉事務所

日時：平成 29 年 5 月 23 日



平成 29 年 5 月 23 日、福島県県南保健福祉事務所に当センター方部課長安藤とふくここ編集担当 4 名（鈴木、佐竹、割栢、宮澤）でお邪魔し、健康福祉部 主幹（兼）副部長（兼）健康増進課長の鈴木栄子様より、当センターの県南地域における支援活動の振り返りと今後の支援活動のアドバイスをいただきました。

～「男遊クラブ」について～

当センター：「男遊クラブ」は 3 年目を迎えました。

男遊クラブとは…浜通り地域から県南地域に避難されている男性の方々を対象としたサロン。「ふくここ」第 17 号参照。

今年度は、これまでも会の運営にご協力いただいていた白河市社会福祉協議会さんが、5 月と 10 月の回について、企画、進行を担当されることになりました。第 1 回目の 5 月の「そば打ち体験」では、地元ならではの企画、会場選びで、参加された方々も楽しんでおられ、大成功でした!!

鈴木主幹：**避難先として、白河市社会福祉協議会さん、生活支援相談員さんが活躍しておられますね。**

今回はメンバー皆さんが会場まで自力でお越しになったと聞き（※会場は白河の関公園で、JR 白河駅から車で約 30 分かかります）、素晴らしいと思いました。

私が参加した時の「男遊クラブ」では、メンバーの方々が積極的に発言する雰囲気印象的でした。メンバーの声を聞きながら進めているのが良いと思います。



当センター：卒業していくメンバーに対して、新しく参加するメンバーが増えず、人数が減少気味です。

鈴木主幹：**広報の方法に工夫が必要なのではないでしょうか。各市町村に、広報誌や、ホームページへの掲載について積極的にお願いしてみてもどうでしょうか。**

当センター：今年度から各回の活動報告と次回の活動内容を当センターのホームページに掲載することとしています。さらに広報の方法を工夫して、避難されている方々の目にふれる機会が多くなるよう働きかけてまいります。



～「陶芸の集い」について～（詳細は「ふくここ」第 26 号参照。）

当センター：「アートまなべ」さんに協力いただいている「陶芸の集い」は 6 回開催することができました。

鈴木主幹：**大堀相馬焼の歴史のある地域にお住まいだった皆さんですので、陶芸を取り入れたのは良い視点だったと思います。**

陶芸以外にも男遊クラブでお世話になっている地元の大統寺さん（※白河市のお寺）が実施しておられる地域で参加できる活動を紹介していくのも良いですね。

当センター：「みなもんだより」(※県南地域で発行されていた避難者向け情報誌。平成 29 年 3 月号で休刊。)の復活も必要なのかもしれませんね。

鈴木主幹：生活の基盤を作っていくきっかけとして、情報提供の機会や、場づくりは大事ですね。

「男遊クラブ」も「陶芸の集い」も参加している方々は、**きっと何かを求めて参加しているのだと思います。**

安心材料をつくるのが、心のケアにつながると思います。

当センター：県中地域にも、同様の集まる場を作りたいという声がありますが、、、。

鈴木主幹：新しく作るというより、県中にお住いの方々に、県南地域にある「男遊クラブ」や「陶芸の集い」を紹介し、参加してもらってはどうでしょう。

当センター：なるほど！自分たちで、県中地域、県南地域と壁を作っているのは仕方ないですね！

～「訪問支援」について～

当センター：訪問していると「所詮、県南地域での支援は避難先での生活の安定が目標なのだろう？自宅を再建したが、それでも自分たちは帰郷を願っている。その気持ちがわかってもらえるとは思えないから、相談しようと思わない。」というような声を聞きます。

鈴木主幹：答えは出せないけれども、語ってもらえる場があることは重要なことではないでしょうか。

支援を断られたからと言って、やめてしまえば終わりです。関わることをし続けること、「わたしたちはあなたのことを心配している」と伝え続けることではないでしょうか。

生活支援を通してメンタル面の支援をすることもできます。生活の支援から始めているのは良いと思います。

数字に表せませんが、やっていることに無駄なことは何もありません。不健康な状態にならないよう、予防活動をしているのです。心のケアセンターが 6 年間の活動を積み重ねた実績として、今があるのだと思います。大事な仕事をしているのだと思いますよ。



鈴木主幹：「頑張る」とは、「我を張る」こと。頑張り過ぎず、活動を続けていってください。

【インタビュー後記】

県の保健福祉事務所さんには当センター発足当初から、支援活動についてご指導、連携をいただいております。鈴木主幹の「6 年間の積み重ね」という言葉に、当センターの活動の中で出会った方々の言葉や表情が思い出されました。

今回のインタビューを県中・県南方部センターのスタッフ間で共有しましたが、今後も避難されている方々や帰還された方々の思いに寄り添うよう努めながら、心のケアセンターならではの支援活動を改めて模索し、頑張りすぎず、心に余裕を持って、活動を続けていきたいと思います。

ふくこ編集委員 一同

●発行元

一般社団法人 福島県精神保健福祉協会
ふくしま心のケアセンター
県中・県南方部センター

〒963-8022

福島県郡山市西ノ内 1 丁目 3-24
成和ビル 1 階

Tel 024-983-0274

Fax 024-983-0276

<http://kokoro-fukushima.org/>



【お問い合わせ先】

被災された方々やその
支援をされている方々
からのご相談

被災者相談ダイヤル “ふくここライン”
TEL 024-925-8322

平日 9:00～12:00、13:00～17:00

その他の
お問い合わせ

ふくしま心のケアセンター 基幹センター
TEL 024-535-8639 FAX 024-534-9917

〒960-8012 福島市御山町 8-30
(県保健衛生合同庁舎 5 階)